商品市況展望

平成 25 年 10 月 13 日記

次期 FRB 議長指名のジャネット・イエレン氏とはどんな人物か

米連邦準備制度理事会（FRB）にあるジャネット・イエレン氏（67）のオフィスのこぎれいなデスクに置かれたパソコンのスクリーンセーバーには、カリフォルニア州バークレーにある自宅の庭の写真が使われている。オバマ大統領によるイエレン氏の次期 FRB 議長への指名が上院で承認されれば、今後 4 年はその色鮮やかな庭の手入れをする暇はほとんどなくなるだろう。

イエレン氏はこのところ、別のものを成長させることに、より注力している。個人消費や投資、雇用だ。大統領がこのきちょうめんで周到なエコノミストを次期 FRB 議長に指名するのも、それが理由だ。発表は 9 日に行われる予定。

2010 年に FRB 副議長に就任したイエレン氏は、危機で傷ついた景気を健全な状態に回復させるため、**FRB が新しいリスクの高い政策を取るよう先頭に立って要求してきた**。そうした政策の 1 つが、数兆ドルの米国債を買い入れることで長期金利を引き下げ、最終的に失業率を低下させることを目的とした「量的緩和（QE）」だ。

量的緩和を支持する姿勢は、バーナンキ現議長とは一致しているが、連邦公開市場委員会（FOMC）の少数派とは相いれない。少数派は、異例の政策は景気回復にはほとんど役に立たず、インフレや金融の不安定化を引き起こす危険があると指摘する。

停滞した景気を刺激するためには型破りな措置もいとわないイエレン氏の態度は、故ジェームズ・トービン氏の秘蔵っ子として受け継いだ知的遺産を反映している。トービン氏はノーベル経済学賞を受賞したエール大学教授で、ケネディ大統領やジョンソン大統領にも助言を提供していた。トービン氏の功績は、大恐慌時代の英経済学者ジョン・メイナード・ケインズの考え方を軸にしており、高失業率や貧困などの問題に政府が対処することを支持していた。

イエレン氏は 1971 年にエール大学で経済学の博士号を取得したが、その際に論文のアドバイザーを務めたのがトービン氏だ。イエレン氏は大学時代は失業のコストと原因を専門に学んだ。**政府と特に中央銀行は失業率の低下に貢献できる、という師の信念をイエレン氏は受け入れた。**

イエレン氏はトービン氏が 02 年に死去した際、「高度な知的水準を満たすだけでなく、人類の幸福度を高める仕事」をするようトービン氏が教え子を励ましていた、とエール・デーリー・ニュース紙に語った。

クリントン政権時代のイエレン氏

FRB が議会から任されている任務は 2 つ。雇用の最大化と物価の安定だ。FRB の政策を利用して失業率を低下させようとするイエレン氏の姿勢は、インフレ抑制という任務に対する同氏の責任遂行をめぐって一部批

判派の間で疑問を生じさせた。例えば、リチャード・シェルビー上院議員（アラバマ州、共和党）は、10 年にイエレン氏が副議長に指名された際、同氏は「インフレバイアス」がかかっているとして反対票を投じた。

一方、イエレン氏の支持者は、同氏は物価の急上昇を阻止しようとする意欲をしばしば見せていると反論する。例えば、ローレンス・マイヤー元 FRB 理事によると、イエレン氏は FRB 理事を務めていた 96 年 9 月、当時同じく理事だったマイヤー氏と共にグリーンスパン議長（当時）にインフレを阻止するため短期金利を引き上げるよう訴えたという（グリースパン議長はその要求に応じなかったが、インフレを抑制する状態は続いた）。

さらに、2%というインフレ目標の公式設定も率先して推進した。それは同氏とバーナンキ議長の長年の目標だった。96 年 7 月に行われた FRB の会合の議事録によると、イエレン氏はインフレ率を 3%から 2%に下げることを目標として設定するようその会議で主張していた。FRB はそれを 10 年以上非公式な目標として設定していたが、11 年にイエレン氏が合意を取り付け、公式な目標になった。イエレン氏は、インフレ指標は不完全であることやインフレが 2%前後の水準にあるときのトレードオフを考えれば、2%は妥当な目標だと述べた。

イエレン氏は、現在の当局者の中で FRB 勤務歴が最も長い。70 年代にスタッフ研究員、90 年代半ばに理事として働き、そして、サンフランシスコ地区連銀総裁を 10 年務めた後に副議長に就任した。クリントン政権時代に大統領経済諮問委員会（CEA）委員長も務めた。

同僚は、イエレン氏がデータを理解し、まとめることに非常にどん欲で、慎重な作業を通して形成した自らの経済観に絶えず疑問を投げかけたり、試したりしていると話す。FRB の会合では、慎重な調査や準備なしに、決断したりすることはおろか、発言したりすることさえないという。

2009 年から 12 年までに FRB 当局が行った公の経済予想をウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）が分析したところ、イエレン氏の予想の精度が最も高かった。

サンフランシスコ連銀総裁時代は、08 年の金融危機の数年前から不動産市場のリスクについてたびたび警鐘を鳴らしていた。しかし、イエレン氏も他の多くの人々と同様、全米規模の住宅価格の下落による副次的影響の深刻さを過小評価していた。

金融市場が機能停止に陥り始めていた 07 年 12 月の FRB の会合では、「信用収縮の拡大やリセッション（景気後退）入りの可能性が極めて現実味を帯びている」と警告していた。後にエコノミストで作る委員会が特定したところによると、米国のリセッションはその年の 10 月に始まっていた。

ハーバード大学のクラウディア・ゴールディン教授（経済学）は、イエレン氏が出世階段を昇ってきたマクロ経済界は「非常に男性的でマッチョな世界」だと指摘した。ゴールディン氏とイエレン氏は、70 年代半ばに共に助教授としてハーバード大学で教べんをとっていたときに出会った。ゴールディン氏はイエレン氏の成功のレシピについて、「まずは一定の洞察力が必要だ。それに、さらに伝達力と尊大さを伴わない決断力を加える必要がある」と語った。

2013 年 10 月 09 日 18:28 JST　By VICTORIA MCGRANE, JON HILSENRATH

市場の注目は 17 日に期限を迎える「**米連邦債務上限引き上げ期限**」に集中しているわけだが、こういうアクシデントな問題とは別に、当方はバーナンキ議長に後任となるイエメン氏の金融政策に注目している。

氏は「量的緩和（QE）」を推進した人物であり、そうである限り**次の 4 年間も極端な金融引き締めは無いだろう**と判断しているのだが、さてどうだろう。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	10 月限(当限)	前日比	8 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥4,109	−16	¥4,111	−13
10 月 8 日	¥4,146	37	¥4,147	36
10 月 9 日	¥4,134	−12	¥4,139	−8
10 月 10 日	¥4,108	−28	¥4,110	−29
10 月 11 日	¥4,087	−21	¥4,090	−20

金相場は、先週号においては『戻り売りの相場展開に変化はないだろう。現在の米財政問題も金市場には強材料としては働いておらず、現状では騰がる材料が見当たらない状況である』とコメントした。

今週の相場展開は、小反発した後の横ばいという状況であったが、週末が引けた後の夜間取引で急落。一時は **3,994 円**と 4,000 円の大台を割り込み、夜間取引の引けは 4,016 円と 10/2 の安値 4,037 円を大きく割り込む格好となった。

一目見てわかるとおり、チャートトレンドは完全に右肩下がりの展開。…中略…

ともかく現状では、**ゴールドマン・サックスを始め、シティグループやモルガンスタンレーらも次々と来年の金相場見通しを引き下げて行っているわけだ。**米国債務の問題も、良くなろうが危機になろうが、株には上下動を引き起こすが、金市場にはどちらも弱材料に捉えられているような雰囲気である。

要は、**金融資本は余ったカネを株式市場に導入させたいわけで、ゴールドに投資してもらっては困る**、という事なのであろう。それが総意だから、金が上がらないという情勢なのだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	¥4,404	10 月 29 日	¥5,077	2 月 7 日	¥3,761	6 月 28 日	¥4,087
2013 年 12 月	¥4,519	12 月 25 日	¥5,081	2 月 7 日	¥3,745	6 月 28 日	¥4,088
2014 年 2 月	¥4,759	2 月 26 日	¥4,979	3 月 21 日	¥3,751	6 月 28 日	¥4,091
2014 年 4 月	¥4,585	4 月 25 日	¥4,760	5 月 10 日	¥3,749	6 月 28 日	¥4,090
2014 年 6 月	¥4,031	6 月 26 日	¥4,531	9 月 4 日	¥3,750	6 月 28 日	¥4,088
2014 年 8 月	¥4,424	8 月 28 日	¥4,532	9 月 4 日	¥4,037	10 月 2 日	¥4,090

今週は横ばいだったが、10/15 付にカウントされる週末の夜間取引では、前述の通りに 3,994 円まで記録して 8 月限は一代安値の更新である。

○NY 金日足

…削除済み…

10/11 の NY 市場では、前日比 28.7 ドル安の 1268.2 ドルでの終了。10/2 の安値である 1276.9

ドルを大きく割り込み、安値では**1259.6 ドルまで記録**である。

当然、ターゲットは 6 月安値である 1179.4 ドルという事になるだろうし、…中略…

なお CFTC のファンドのポジション発表は、まだ停止中。米国政府機関が動き出さない限り、どうにもならない。CFTC は 2000 人の職員のうち、3 人しか出ていないというのだから、こりゃどうしようもない。
…中略…

また 10/11 現在での ETF 残高は、1263.24 トンと前週比 4.79 トンの減少である。**6 週連続の減少**であり、今週も減った。
つまり現状では、**この米財政問題から金へ資金流入しているという事は起きていないし、1300 ドルを割り込んでも買いは入っていないという事である。**
このような情勢では、値頃で買うのは無謀だと思われる。

結論として当方の相場観は、戻り売り相場に変化無しである。現状のようなトレンドが続けば、いずれは NY ベース 1,000 ドル割れ、東京金は 3,000 円前半まで下がっても不思議ではないだろう。

〇東京プラチナ日足
…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	10 月限（当限）	前日比	8 月限（先限）	前日比
10 月 7 日	¥4,368	24	¥4,377	22
10 月 8 日	¥4,413	45	¥4,427	50
10 月 9 日	¥4,410	−3	¥4,424	−3
10 月 10 日	¥4,378	−32	¥4,389	−35
10 月 11 日	¥4,408	30	¥4,428	39

プラチナ相場は、先週号においては『目先は一時的な反発があってもおかしくないところに差し掛かったが、戻りは 4,500 円台までと想定する。そこはまた売り場となり、戻り売り相場は継続するだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、4,302 円（10/4）からは下げ止まって反発するものの、4,500 円にも届かず、**4,400 円台前半までの小幅な戻り**に留まった。また 3 連休入りとなるその後の夜間取引では、安値で 4,340 円まで記録するなど、また大きく下げている。

週末の夜間取引では、金が安値更新となる中で、プラチナはまだかろうじて 4,302 円は割り込んでいない。…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナ一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	¥3,998	10 月 29 日	¥5,288	2 月 8 日	¥3,933	10 月 30 日	¥4,408
2013 年 12 月	¥4,249	12 月 25 日	¥5,300	2 月 8 日	¥4,122	6 月 27 日	¥4,419
2014 年 2 月	¥4,831	2 月 26 日	¥5,052	3 月 12 日	¥4,125	6 月 27 日	¥4,414
2014 年 4 月	¥4,622	4 月 25 日	¥4,999	5 月 16 日	¥4,109	6 月 27 日	¥4,414
2014 年 6 月	¥4,284	6 月 26 日	¥4,948	9 月 4 日	¥4,125	6 月 27 日	¥4,420
2014 年 8 月	¥4,810	8 月 28 日	¥4,956	9 月 4 日	¥4,302	10 月 4 日	¥4,428

〇プラチナ－金価格差日足
…削除済み…

週末現在のサヤは、4,428 円（プラチナ）－4,090 円（金）＝338 円。

10/7 に 225 円まで縮小した後、さすがに拡大した。400 円台までは拡大しても不思議ではないが、トレンドが完全に変わったとまでは言えないだろう。

結論として当方の相場観は、4,302 円を割り込むようなら、また年初来安値に向かっての下落を続けることになるだろう。W 底形成なら一度は戻るだろうが、4,500 円台以上の戻りは困難であると想定している。戻り売りである。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	11 月限(当限)	前日比	9 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥23,800	290	¥24,460	170
10 月 8 日	¥24,190	390	¥24,720	260
10 月 9 日	¥24,190	0	¥24,540	−180
10 月 10 日	¥23,510	−680	¥24,660	120
10 月 11 日	¥22,530	−980	¥24,420	−240

まずはコーンから…

先週号においては『11 月くらいから買いを考えたいので、そこまでになるたけ下がってもらいたい。今はただそう思うだけ』とコメントした。

今週の相場展開は、10/3 に記録した **24,190 円からは小反発**したが、週末にはまた下落して横ばいの展開。

夏場の 28,000 円台の高値からは 4,000 円ほど（15%ほど）価格水準を切り下げているわけだが、昨年はホット＆ドライで収穫高が減って高値を付けた相場も、今年は豊作～需給緩和で現状の値位置に落ち込むのは当然であると言える。

これからは収穫も終了して需給相場に入るわけだが、**現状のファンダメンタルズでは大した上昇など考えられない**。…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 11 月	¥25,600	10 月 16 日	¥28,910	5 月 30 日	**¥22,510**	**10 月 11 日**	¥22,530
2014 年 1 月	¥25,700	12 月 17 日	¥28,600	6 月 3 日	¥23,350	10 月 3 日	¥23,610
2014 年 3 月	¥27,290	2 月 18 日	¥28,750	6 月 3 日	¥24,030	8 月 12 日	¥24,250
2014 年 5 月	¥26,550	4 月 17 日	¥28,970	6 月 3 日	¥23,500	10 月 3 日	¥23,500
2014 年 7 月	¥26,600	6 月 17 日	¥28,410	6 月 21 日	¥23,990	8 月 13 日	¥24,320
2014 年 9 月	¥25,190	8 月 16 日	¥26,600	8 月 27 日	¥24,190	10 月 3 日	¥24,420

期近は週末に一代安値の更新である。逆ザヤ時代は終焉で、大きな順ザヤ時代の幕開けだ。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 10/11 のシカゴ市場は、12 月限で前日比 5.00 セント安の 433.25 セント。

シカゴコーンも新穀に変わってからは、全くの横ばい（僅かずつ値を消す展開）で相場にならず。こんな相場を仕掛けたって、どうしようもない。

なお CFTC のポジション報告は、米政府機関の停止で未発表である。

〇シカゴ小麦日足
…削除済み…
　ただし来年の相場の話をすれば（来年の話をすれば鬼が笑う、ということわざもわるが）、すでに小麦は上昇トレンドへの変化している。そのうち、大豆やコーンも相場になる時期が到来するのだろう。

結論として当方の相場観は、来年の天候相場は買いたいと思っているが、年内は手出ししてもしょうがあるまい。

なお、あまり相場が動かないようなら、穀物のレポートはしばらく停止したいと考えております。

〇東京大豆日足
…削除済み…

今週の大豆の値動き

	10 月限(当限)	前日比	8 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥51,510	−670	¥52,080	210
10 月 8 日	¥51,500	−10	¥52,850	770
10 月 9 日	¥50,000	−1500	¥52,490	−360
10 月 10 日	¥50,000	0	¥52,730	240
10 月 11 日	¥50,000	0	¥52,550	−180

続いて一般大豆です…

先週号においては『しばらく様子見である。今は売りたくも無し、買いたくも無しだ』とコメントした。

今週の相場展開は、10/3 の安値 51,480 円からは戻りに入り、**1,500 円ほどは戻した**。しかし戻りは、限定的なものにとどまる格好であった。

コーンに比べると米国のファンダメンタルズは悪くないのであるが、**世界的にはやはり過剰**。
…中略…

「閑散に売りなし」という相場格言もあるが、出来高ゼロの限月も続出する始末では、やりたくたって仕掛けられるものではない。現状の状況では、手出し無用としか言い様がない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	¥47,220	10 月 16 日	¥68,750	7 月 10 日	¥47,300	11 月 13 日	¥50,000
2013 年 12 月	¥50,680	12 月 17 日	¥59,950	9 月 13 日	¥48,450	1 月 9 日	¥55,000
2014 年 2 月	¥53,000	2 月 18 日	¥57,300	9 月 13 日	¥48,960	8 月 8 日	¥54,000
2014 年 4 月	¥50,910	4 月 17 日	¥60,000	9 月 4 日	¥49,850	5 月 2 日	¥55,200
2014 年 6 月	¥51,760	6 月 17 日	¥56,340	7 月 10 日	¥49,130	8 月 8 日	¥52,930
2014 年 8 月	¥52,600	8 月 16 日	¥55,270	9 月 4 日	¥51,480	10 月 3 日	¥52,550

〇シカゴ大豆日足
…削除済み…

週末 10/11 のシカゴ市場は、11 月限では 21.25 セント安の 1266.75 セント。ハーベストプレッシャーの圧迫で急落だ。

なお**ゴールドマン・サックスは、世界的な在庫圧迫で、来年に掛けて相場は 10.50 ドルまで下落すると予測**。そこまで下げれば買ってみたいが、今はまだ高いという証拠であろう。

結論として当方の相場観は、大きく突っ込んで安値を出すようなら来年の天候相場期は買いから入りたいが、今は手出し出来る環境にない。出来高ゼロの限月もあり、このような状況では大豆のレポートはしばらく休刊する事とせざるを得ない。

〔ゴム〕

〇東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	10 月限(先限)	前日比	3 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	245.7	2.9	257.0	2.7
10 月 8 日	249.5	3.8	264.2	7.2
10 月 9 日	250.0	0.5	264.8	0.6
10 月 10 日	246.5	−3.5	259.4	−5.4
10 月 11 日	251.0	4.5	264.5	5.1

先週号においては『戻り売り相場に変化無しであろう。最大戻しても 270 円どころであろうし、底値は全限一代安値を更新してからの判断であると考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、10/4 の安値 253.8 円から **265 円どころまで反発**に転じたが、その後はもみ合いで終了である。

先週号で「最大戻しても 270 円どころ」としたわけだが、現状では 265 円までは戻した。だがこの相場観に変化はなく、**結論から先に言えば、また第 2 弾の下げが早晩到来するだろう、との見方である**。

現状では、**ゴム独自の買い材料というのは無い**わけであり、タイの産地の集荷は順調だ。米財政問題や、中国経済の問題などが話題で動いているわけだが、それはすべて外部要因である。相場としては、『天井を打った相場は、底するまで下がる』という事があるわけで、290 円が天井だと考える限り、新規で買うなど考えられないという事だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	253.7	4 月 24 日	299.0	5 月 13 日	222.3	6 月 25 日	251.0
2013 年 11 月	267.7	5 月 28 日	279.0	9 月 9 日	223.9	6 月 25 日	253.0
2013 年 12 月	231.0	6 月 25 日	282.5	9 月 9 日	225.5	6 月 25 日	255.9
2014 年 1 月	257.0	7 月 26 日	287.1	9 月 9 日	238.7	7 月 31 日	259.0
2014 年 2 月	278.8	8 月 27 日	290.3	9 月 9 日	251.2	10 月 4 日	261.9
2014 年 3 月	277.9	9 月 25 日	278.5	9 月 25 日	253.8	10 月 4 日	264.5

当先のサヤは、10 月限 251.0 円～3 月限 264.5 円と **13.5 円の逆ザヤ**。順ザヤ幅は若干拡大した。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、…中略…

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売りの展開に変化はないだろう。270 円に接近した場面は、売って構わないのではないかと考える。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足
…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『戻り売り方針継続の相場であろう。6 万円割れの後に、底値形成のチャートとならなければ買い方針に転換する気にはならない』とコメントした。

今週の相場展開は、**NY 原油は横ばい**。週末 10/11 は、前日比 0.99 ドル安の **102.02 ドル**での終了であり、**安値は 100.60 ドルと安値更新**であった。

今や世界一の産油国となったアメリカの政策からすれば、過度の下落は望まれないと思うわけだが、中東危機が騒がれて 8 月に 112 ドル台まで上昇した時点から見れば、原油を取り巻く環境は弱気に変化したと見るのは当然。…中略…

○東京原油日足
…削除済み…

今週の東京原油の動き

	10 月限(当限)	前日比	3 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥64,910	150	¥62,280	170
10 月 8 日	¥65,120	210	¥62,900	620
10 月 9 日	¥65,400	280	¥63,440	540
10 月 10 日	¥65,520	120	¥63,370	-70
10 月 11 日	¥66,500	980	¥64,580	1310

東京原油は、**61,630 円（10/2）から急反騰であり、週末には 64,830 円（10/11）まで記録。4 連続の陽線で 3,200 円の反騰**は、NY 原油の動向と比較すれば、ちょっと意外な急騰である。

だが NY は NY、東京は東京なのだから、おかしいと言っても始まらない。相場は現在 3 分の 2 戻しの最中であり、陰線が出て失速したところから、再度売るのが良いだろうと見ている。

ただしチャートでは一目均衡表の雲の下に抜けつつあるところから、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	¥59,500	5 月 1 日	¥68,530	9 月 9 日	¥57,510	5 月 2 日	¥66,500
2013 年 11 月	¥60,370	6 月 3 日	¥67,810	9 月 9 日	¥58,040	6 月 14 日	¥66,240
2013 年 12 月	¥60,580	7 月 1 日	¥67,170	9 月 4 日	¥60,000	8 月 9 日	¥65,730
2014 年 1 月	¥62,420	8 月 1 日	¥66,750	8 月 28 日	¥59,720	8 月 9 日	¥65,330
2014 年 2 月	¥63,890	9 月 2 日	¥66,380	9 月 6 日	¥61,830	10 月 1 日	¥64,990
2014 年 3 月	¥62,520	10 月 1 日	**¥64,830**	**10 月 11 日**	¥61,630	10 月 2 日	¥64,680

結論として当方の相場観は、引きつけての戻り売りの好機であろう。陰線が一本入ったら、そこからは売り場と考える。

〇東京ガソリン日足
…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	11 月限(当限)	前日比	4 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥74,160	−340	¥74,070	−70
10 月 8 日	¥74,980	820	¥74,840	770
10 月 9 日	¥76,290	1310	¥76,020	1180
10 月 10 日	¥76,410	120	¥76,310	290
10 月 11 日	¥77,150	740	¥77,190	880

続いてガソリンです…

先週号においては『チャートは下げトレンドの継続を示しており、ざっくりあと 4,000 円程度は下げても不思議ではないと考える。だがスポット価格からは割安であり、どうもそれが気になって売りづらい相場である』とコメントした。

今週の相場展開は、**73,350 円（10/8）までの下落**の後、急反騰を開始した相場が **77,450 円（10/11）まで上昇。一気に 4,100 円の急騰**を演じる事となった。

4 連続陽線の出現で、3 日で 4,000 円の急反騰である。売り方は一気にあごを刺された格好である。

国内製油所の事故発生が原因だという話も聞いているが、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 11 月	¥72,990	4 月 26 日	¥79,060	9 月 6 日	¥68,030	5 月 2 日	¥77,150
2013 年 12 月	¥71,760	5 月 27 日	¥77,880	9 月 6 日	¥69,450	6 月 14 日	¥76,860
2014 年 1 月	¥70,660	6 月 26 日	¥77,500	8 月 28 日	¥69,520	6 月 27 日	¥76,000
2014 年 2 月	¥75,050	7 月 26 日	¥77,660	8 月 28 日	¥71,020	8 月 9 日	¥75,660
2014 年 3 月	¥76,610	8 月 26 日	¥78,870	8 月 28 日	**¥73,210**	**10 月 8 日**	¥76,930
2014 年 4 月	¥76,190	9 月 26 日	**¥77,450**	**10 月 11 日**	**¥73,350**	**10 月 8 日**	¥77,190

10/11 現在の業者間転売価格は、80,700 円（税抜き）**と前週比 2,350 円高。**スポット価格はまた一気に切り返した。

…中略…

10/5 現在のガソリン在庫は、前週比 1.3 万 kl 増の **197.0 万 kl**。前年同期比では 28.4 万 Kl 少ない水準。ほぼ適正水準の在庫である。

結論として当方の相場観は、ここからの戻りは引きつけての売りが良しと見るが、今回の急騰劇は、やはりスポット価格よりも大幅に割安となっている時は、売り安心は危険という事の証明であろう。今後も現物とのサヤには注意が必要だろう。

〇東京灯油日足
…削除済み…

今週の灯油の値動き

	11 月限(当限)	前日比	4 月限(先限)	前日比
10 月 7 日	¥78,130	150	¥74,620	70
10 月 8 日	¥78,790	660	¥75,280	660
10 月 9 日	¥79,800	1010	¥76,180	900
10 月 10 日	¥79,840	40	¥76,320	140
10 月 11 日	¥80,700	850	¥77,180	850

最後に灯油です…

先週号においては『1 月限・2 月限は大きく下がったら突っ込み買い。逆に 3 月限・4 月限は戻したら売りでの対処であり、全体としてはやや弱い横ばい傾向であると見るが、サヤの拡大はあっても良いだろうとの見方である』とコメントした。

今週の相場展開は、**73,900 円（10/8）まで下落**の後、急反騰。週末には **77,430 円（10/11）まで 3,530 円の急反騰**であり、期近も 8 万円台突破と一代高値の更新となった。

一気の切り返しであるが、原因は国内製油所火災らしい。…中略…

ただし期近～中物は需要期ゆえ、どうなるかは判らない。この 3 連休は記録的な暑さとなっているが、冬に暖かいかどうかは、なってみないと判らないゆえに。

一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 11 月	¥75,350	4 月 26 日	**¥80,750**	**10 月 11 日**	¥69,850	5 月 2 日	¥80,700
2013 年 12 月	¥74,610	5 月 27 日	¥81,200	9 月 9 日	¥71,580	6 月 14 日	¥80,790
2014 年 1 月	¥73,900	6 月 26 日	¥81,300	9 月 9 日	¥72,650	6 月 27 日	¥80,630
2014 年 2 月	¥78,000	7 月 26 日	¥81,270	9 月 9 日	¥74,130	8 月 9 日	¥80,220
2014 年 3 月	¥79,130	8 月 26 日	¥81,010	9 月 9 日	**¥75,770**	**10 月 8 日**	¥79,070
2014 年 4 月	¥75,440	9 月 26 日	**¥77,430**	**10 月 11 日**	**¥73,900**	**10 月 8 日**	¥77,180

10/11 現在の業者間転売価格は、83,050 円（税抜き）と**前週比 3,000 円高**。これだけスポットが上昇すれば、当限が 8 万円乗せするのも当然だ。

10/5 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、需要期の突っ込み買い。先物の戻り売り方針に変化はない。乱高下しながら、いずれはサヤが開くのだろうと考えているゆえに。

〔為替・株式〕

○ドル/円相場日足
…削除済み…
　売る人（安いと思う人）と買う人（高いと思う人）が居るから価格が決まるのが相場であり、全員が同じ方向だと思ったら相場は成立しない。ジャンケンで全員がグーを出し続けたら、勝負にならないのと似ているか。
　とにかく当方は、三角持ち合いを上に抜ける＝円安になるという相場観であり、10/8 の 96 円台で円高調整は終了したのではないかという見方だ。

　なお来週の主な予定は、…中略…　などである。

○日経平均日足
…削除済み…
　このチャートには週末の 1 本だけ入っていないが、週末は前日比 210 円高の 14,404 円での終了だ。
　当方は 13,748 円（10/8）で底入れしたと思っているが、来週の**米連邦債務上限引き上げ期限**の 17 日までは注目であろう。万が一、これを割り込むような事態になれば、その時は大暴落が起きることとなるだろう。
　その時は、先物で売るしかないね。

○NY ダウ日足
…削除済み…
　9/18 からの下げは見事なものだったが、8 月の安値を割り込んで下放れした後、10 日に急反騰である。週末 11 日も、前日比 111 ドル高の 15,237 ドルでの高値引け。
　CME の日経平均先物は、大証終値比 170 円高の 14,580 円。

　このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。
内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものでは在りません。
（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com